

平成 2 6 年 6 月 2 3 日現在

機関番号：3 4 4 2 8

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2011～2013

課題番号：2 3 7 2 0 1 5 7

研究課題名（和文）英国における「コリンナ」の系譜と女性セレブリティに関する研究

研究課題名（英文）A Study in English "Corinne" and Female Celebrity

研究代表者

皆本 智美（MINAMOTO, Tomomi）

摂南大学・外国語学部・准教授

研究者番号：2 0 4 4 1 1 0 7

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 2,200,000 円、（間接経費） 660,000 円

研究成果の概要（和文）：戦時下の女性像を描いたフェリシア・ヘマンズと、男女間の性愛における女性の苦悩を描いたレティシア・ランドンという二人の女性詩人は、作風は異なるものの、「女性らしさ」の理想と「作家・詩人」という職業との間で引き裂かれる「コリンナ」像の英国版を二人ともに打ち立てた。二人は作品の中で「コリンナ」のモチーフを用いたが、ナショナリズムの高まる英国社会の中で、両者ともに詩人自身が「英国のコリンナ」と見做されるようになっていった。

研究成果の概要（英文）：While Felicia Hemans was said to be good at depicting the sufferings of women under the wars, Letitia Landon often dealt with the sufferings of women in love affairs. Despite the differences between the two, both of them contributed to establishing English "Corinne" as a woman torn between the ideal of femininity and her career. Not only did they represent English "Corinne" in their works, they themselves were represented as English "Corinne" during the period when English nationalism was on the rise.

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：文学 英米・英語圏文学

キーワード：コリンナ ジェンダー

## 1. 研究開始当初の背景

1820年代から1830年代にかけて活躍した英国女性作家について調べる中で、彼女たちの作品は、イギリスで発行され若い女性たちの間で流行を博したりテラリー・アニジュアルに掲載されることが多かったことに気付き、続いてリテラリー・アニジュアルについて調査したところ、フェリシア・ヘマンズとレティシア・ランドンという二人の女性詩人の作品が頻出することに気付いた。両詩人の作品は掲載される頻度や分量からみて、当時の女性に多大な影響力を与えていたことが推察され、両詩人ともにスタール夫人の小説『コリンナ』に登場する女性主人公をモチーフとした詩を残しているという共通点があることがわかった。

スタール夫人の『コリンナ』では、大陸の血筋と英国の血筋の両方をひく女主人公が、英国人の恋人が理想とする「家庭的な女性」像と、詩人という使命との間で葛藤を抱えたまま亡くなる。フランスで出版されたコリンナが英語に翻訳されて版を重ね流行したという事実は、「女性らしさ」の理想と「詩人・作家」という職業との間の矛盾や葛藤がイギリスで注目を集めていたことを示唆している。

このような矛盾や葛藤は以前から存在し、前時代の女性著名人も同様の問題を抱えていたが、ヘマンズやランドンが活躍した頃は、印刷術の発展や読者層の拡大により、著名人の名と風貌が初めて広く人口に膾炙するようになり、最近の研究から「セレブリティ誕生の時代」と位置付けられるようになった時代であった。このような時代に、当時英国版コリンナとして知られた女性セレブリティであるヘマンズとランドンの表象を分析することを通じ、当時の「公共圏」をめぐる問題が明らかにされることが期待された。

## 2. 研究の目的

ヘマンズとランドンは得意とするテーマこそ異なるものの、「女性らしさ」の理想と「詩人・作家」という職業との間の葛藤に焦点を当てながら、「女性詩人」として成功したという共通点と、両者ともに「イングランドのコリンナ」と称され、フランス等の大陸諸国と差別化された「英国女性」として表象されたという共通点をもつ。

したがって、本研究の目的として第一に、二人がいかにして「女性らしさ」の理想と「詩人・作家」という職業を両立させたのかという女性の公共圏に関わる問題を明らかにすることが挙げられ、第二に、二人が英国女性のナショナリズム形成に関わっていく様相について考察していくことが挙げられる。たとえばフランスのナポレオンに対する英国側の英雄はウェリントン将軍であり、このような男性の英雄が国民統合の

象徴として機能していたことがすでに明らかにされているが、当時の女性セレブリティとして台頭しつつあった女性文人たちが男性の英雄に対応するような存在として機能していた可能性についても調査し、女性セレブリティが対仏戦争後の英国女性の自己形成に関与していく過程や、英国における女性のナショナリズム発露の様相について考察することを目的とする。

## 3. 研究の方法

本研究の目的を達成するために取った方法は、次の3つの方法に分けられる。

### (1) 資料・文献調査と収集

本研究には、すでにリプリントされている文献だけでなく一次資料も必要であったので、国内外、国外については英米の図書館においての現地調査が必要であった。

### (2) 資料・文献の精読と分析

本研究の目的で挙げた2点を解明するためには、(1)で調査して収集した広範な資料や文献を解読する必要があった。そのため、まずヘマンズとランドンそれぞれの作品を精読し、その特徴を明らかにして、両詩人の作品中から「コリンナ」のモチーフを抽出し、その表象を分析して特徴を明らかにした。

また同時代の文献資料を精読し、両詩人の受容についても調査するとともに、さらに近年になって出版された研究文献も精査した。

### (3) 研究成果の公表

研究成果の一部を、学会における口頭発表や、論文として発表した。本報告書執筆時において未発表の研究成果も存在するので、極力早期に発表することを目指す。

## 4. 研究成果

ヘマンズは戦時下の女性を、ランドンは性愛の中の女性を扱い、それぞれ方法やテーマは異なるものの、両者ともに「女性らしさ」の理想と現実との間で女性が直面する葛藤に焦点を当てたという意味で、「コリンナ」の系譜上に位置すると言える。両者はいわば女性の葛藤や苦悩を免罪符として機能させつつ、葛藤や苦悩を感じることでできる感受性に優れた「女性性」を強調することによって、あるいは他者からそのような面を強調されることによって、「家庭」や「恋愛」という私的領域と「詩人・作家」という公的領域を横断していった。しかしながら、両者は他方で、著名人の名と風貌が初めて広く人口に膾炙するようになった英国社会において、自らの意図の有無にかかわらず「英国性」「女性性」という属性を賦与され消費されるようになってしまったという側面もうかがえる。

以下、ヘマンズとランドンに分けて記述

する。

(1) ヘマンズは戦時下の女性、特に女性の犠牲的精神や女性の雄姿を扱うなど、愛国的な詩作品を多く残したが、そのような「公的」主題を扱うにあたって、彼女は独特の戦略を用いていたといえる。たとえば“*To Patriotism*”という詩に“*To My Younger Brother, on His Entering the Army*”という詩を続けることにより、公的領域に「家庭」という女性が属する領域を接続させた。さらに、イタリアやギリシアという当時の戦闘地域を主題に取り上げるにあたっては、*The Restoration of the Works of Art to Italy* (1816) や *Modern Greece* (1817) 等に観察されるように、直接的に戦争を描くというよりは、「芸術」という伝統的に教養ある女性が扱うことを許容されていた主題を扱うことによって、ジェンダーの境界を侵犯したという批判を免れることに成功したといえる。

政治や戦争といった歴史的テーマは、従来男性が扱う領域とされていたが、ヘマンズは「国家」という集団的経験を語るのではなく、「個人的体験」に焦点を当てることによって、逆説的に、そのような体験を共有する集合体を作り上げたともいえるだろう。「個人的体験」を描くには、私的な生の営みや感情の描写が要求される。*The Siege of Valencia* や *Records of Woman* において、そのような手法を発揮したヘマンズは、「女性にしか書くことのできない詩の書き手」として、その女性性を称揚されるようになっていった。

戦争という主題において成功した公的領域と私的領域の接合を、ヘマンズは他の主題においても試みている。“*Woman and Fame*”や“*Corinne at the Capitol*”等の詩作品において、ヘマンズは公的領域において名を成す女性を私的領域と接合させている。公的領域における女性の葛藤や苦悩を描き、そのような感情の強さ、すなわち感受性に優れた「女性性」を強調することによって、ヘマンズは「英国的女性らしさ」の理想を保持しながらの公的領域における成功を成し遂げ、英国女性の理想を体現する存在として当時の言説内に配置されていったといえる。

(2) 一生を通じてロンドンから離れた場所で生活し、夫や母親という庇護者の下で活動したヘマンズとは異なり、ランドンはロンドンを拠点として、つねに文壇や社交の中心に接し続け、親元から独立して活動していた。そのことは、ランドンが自身の作品において主に「性愛」を扱ったこともあり、ランドンをスキャンダルの渦中へ巻き込むことへとつながっていった。

ランドンは当時若い女性たちの間で流行を博していたリテラリー・アニュアルに活

路を見出し、リテラリー・アニュアルにしばしば掲載されていたような形態、すなわち版画等の視覚的作品と並んで詩作品が掲載されるような形態で多くの作品を発表した。その多くの作品は英国から遠く離れた異国を舞台としており、まさにスタール夫人の「コリンナ」が異国情緒を喚起することによって英国性を強調したのと同様の手法で、さらに視覚的要素も利用しながら、「異国性」と対比される「英国性」を焦点化する。ランドンの詩は読者を遠い異国の地へいざなうと言えるが、彼女自身、そのような遠い異国の地アフリカで亡くなった。その生涯の軌跡は小説『コリンナ』の女性主人公と重なり、ランドンは詩作品とともに詩人自身も神話化され消費されたという意味で、「コリンナ」の系譜に位置する詩人である。

#### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計 0 件)

〔学会発表〕(計 1 件)

Tomomi MINAMOTO, “Reminiscences of the Past: *Wuthering Heights* and *A True Novel*”, The 21<sup>st</sup> METU British Novelists Conference, 12 December 2013, Middle East Technical University, Ankara, Turkey

〔図書〕(計 1 件)

皆本智美, 大阪教育図書、「コリンナの娘たち」『イギリス文学のランドマーク』、2011、335-45。

〔産業財産権〕

出願状況(計 0 件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
出願年月日：  
国内外の別：

取得状況(計 0 件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
取得年月日：  
国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等

6. 研究組織

(1)研究代表者:皆本 智美(MINAMOTO Tomomi)  
摂南大学・外国語学部・准教授  
研究者番号:(20441107)

(2)研究分担者

( )

研究者番号:

(3)連携研究者

( )

研究者番号: